

## 看護学科

## 講 義 要 約

科目	看護管理	単位	1	開講時期	3年生前期			
授業形態	講義・演習	時間	15	必修区分	必修			
担当者	認定看護管理者:岩崎 厚子(12) 看護師: 加藤 夕紀子 (4)							
授業目的	看護活動が円滑に行われるために必要な看護管理について理解し、看護職者としてのリーダーシップについて学ぶ。							
到達目標	看護をしきみとしてとらえ、よりよい看護を提供できるかを追求する視点をもつことができる。							
技術項目								
授業概要	講義や演習を通して、看護師は社会に対し、どのような機能や責務があるかを考える。							
授業展開	1	看護管理とは			加藤 夕紀子			
	2	病院における看護管理						
	3	看護職のキャリアマネジメント			岩崎 厚子			
	4	看護サービスのマネジメント						
	5	マネジメントに必要な知識と技術						
	6	看護を取り巻く諸制度						
	7	看護管理のマネジメント演習						
	8	看護管理のマネジメント演習						
		終了試験						
履修条件	これまでに履修した看護の役割についての集大成ともいえる科目である。看護師は社会に対し、どのような機能や責務があるか考える授業となるので、自分の考えを論述したり、口述できる力を発揮してほしい。							
評価方法	終了試験(配点: 30点・岩崎 70点)							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院							
参考書	雑誌「看護展望」メディカルフレンド社 雑誌「看護管理」医学書院 新版 看護者の基本的責務 日本看護協会監修 日本看護協会出版社 看護六法 新日本法規 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 岩崎夏海 ダイヤモンド社							
備考	全講義終了後、終了試験を行います。							

## 看護学科

## 講 義 要 約

科目	看護研究	単位	1単位	開講時期	3年前期	
授業形態	講義・演習	時間数	30時間	必修区分	必修	
担当者	看護師 玉木 恭子					
授業目的	研究力の基礎を養う					
到達目標	1 看護専門職者として看護における研究の意義・目的を知る。 2 研究の種類・プロセスを知る。 3 先行研究の分析をする 4 文献検討を行い、看護実践の意味や課題を明確にする。 5 研究における倫理的配慮について解釈を述べる。					
技術項目						
授業概要	研究力の基礎を講義・ワーク・発表を通し学習する。					
授業展開	回数	内容	準備等	担当者		
	1	オリエンテーション・授業全体の課題 看護研究とは何か・研究の倫理的配慮		玉木 恭子		
	2	研究疑問の導き方 ケースレポートと事例研究				
	3	研究疑問を精錬するとは 研究計画書について 研究デザイン・文献の種類文献検討について	各自で看護研究の文献を検索し、一部コピーをして持参。			
	4	事例・先行研究のクリティック 研究の提出・発表について				
	5	クリティックについて 例文でクリティックしてみよう（ワーク）				
	6	看護研究作成の道のり (担当教員・発表について)				
	7	看護研究ワーク		玉木 恭子 または 研究担当教員		
	8	看護研究ワーク				
	9	看護研究ワーク・作成資料について				
	10	看護研究ワーク				
	11	看護研究ワーク				
	12	発表用資料について	PPの作成	研究成果発表 を各ブースに 分かれて発表 する		
	13	看護研究発表会				
	14	看護研究発表会				
	15	看護研究発表会				
履修条件	再試験の場合は、要件として課題レポートが出されていることが前提となる。					
評価方法	パフォーマンス評価（経過・ケースレポート用）60点程度 提出物20点程度 研究発表20点程度					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護研究					
参考書	看護学生のためのケース・スタディ					
備考	研究担当教員と面談方式で看護研究の精錬を行い、研究成果を発表する。					

## 看護学科

## 講 義 要 紹

科目	地域・在宅看護の方法Ⅲ	単位	1	開講時期	3年後期	
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修	
担当者	訪問看護認定看護師 稲葉 一代 (10) ・看護師 石島 祐美 (20)					
授業目的	暮らしや生活者と看護の視点をもち、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を理解する					
到達目標	1 地域・在宅看護論実習での体験や学びをもとに在宅療養者と家族が抱える問題を生活の問題として明確にする 2 地域・在宅看護での援助方法について、在宅看護の特徴と照らして考えることができる 3 訪問看護ステーションの機能、法律・制度について理解する 4 地域・在宅看護に必要な社会保障制度やサポートシステムについて理解する 5 地域包括ケアシステムの実際と関連職種との連携・協働について理解する					
技術項目						
授業概要	1年生・2年生での学び（講義・演習・実習や法制度、サポートシステムなど）を基本にし、それらを発展させる授業となっています。訪問看護ステーションの設立と領域別事例から支援マップを作成します。事例の違いや、マネジメントの違いから個別性のある支援マップを作成していきます。他のグループとの相違を発見し、自分たちの力にしていってください。 地域・在宅看護の実際を知り、よりよい看護を探求するための方法を講義・演習を通して学ぶ。					
	内容			準備等	担当者	
	1	地域・在宅で暮らす中での看護の役割（継続看護・看看連携・多職種協動・法制度含む）			稲葉 一代	
	2	訪問看護ステーションについて				
	3	訪問看護ステーション設立のGW				
	4	訪問看護ステーションの設立GW				
	5	訪問看護ステーション設立についての発表				
	6	地域包括ケアシステム・4つの助と看護について			石島 祐美	
授業展開	7	事例別地域包括ケアシステムマップの作成				
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	終了試験					
履修条件	1・2年生における地域・在宅看護に関する講義をすべて履修が終了していること。試験を受けるにあたり、授業時間数が条件を満たしていること。					

評価方法	配点 筆記60点 GW評価40点 課題提出・出席状況
テキスト	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院
参考書	看護師・看護学生のためのレビューブック メディックメディア
備考	

## 看護学科

## 講 義 要 約

科目	災害看護	単位数	1	開講時期	3年後期						
授業形態	講義、グループワーク	時間	15	必修区分	必修						
担当者	看護師 松本 めぐみ(9) 佐藤 みつ子(6)										
授業目的	災害時における看護活動について理解することができる。										
到達目標	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。そこから、生命や健康生活への影響を最小限にとどめようとする看護活動について学ぶ。										
技術項目											
授業概要	<p>近年、災害発生件数は増加し、被害も拡大傾向にあります。私達は、自然・社会の中で生きています。災害は人間が生きて生活する中で起こる出来事として認識し、日本のみならず世界の情勢や社会の変化にも視野を広げ、様々な情報の中で災害看護を学べるよう臨んでください。</p> <p>いつ発生するかわからない災害に対処するため、すぐに使える知識を身につけられるよう、真剣に取り組みましょう。</p>										
授業展開	回数	内容		準備等	担当者						
	1	災害看護概論 災害看護の定義と役割		講義	松本めぐみ						
	2	災害のサイクルに応じた看護活動									
	3	災害時の看護活動の実際 CSCATT、トリアージ実演		講義・演習	佐野みつ子						
	4										
	5	地域防災を考える ハザードマップをもとにグループワーク、発表		グループワーク	松本めぐみ						
	6										
	7										
	8	終了試験									
履修条件											
評価方法	出席日数、授業態度(グループワークへの参加姿勢を含む)、筆記試験										
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院										
参考書											
備考											

## 看護学科

## 講 義 要 紹

科目	国際情報論	単位数	1単位	開講時期	3年生前期			
授業形態	講義・グループワーク	時間	30時間	必修区分	必修			
担当者	看護師 玉木 恭子(22) 濱井 妙子(6)							
授業目的	様々な人の暮らしや医療や看護体制を学ぶことで国際的な視野を広げる							
到達目標	1 国際社会における看護の活動領域の理解を深めるため、国際看護を学び、看護師に期待される国際協力を理解する。 2 国際看護を理解することで、多様な価値観・異文化の理解に役立て、国際的視野を広げ、自己に期待される役割に気づく。							
技術項目								
授業概要	様々な形での国際化が進んでいます。それは医療・看護の場でも同様です。対象の多様な価値観・異文化を講義やグループワークそして、実際に他国で看護を提供した経験がある看護師からの講義を通じて学びます。							
授業展開	回数	内容	準備等	担当				
	1	国際看護学、国際情報論とは		玉木 恭子				
	2	諸外国の保健医療福祉の動向と問題①		濱井 妙子				
	3	諸外国の保健医療福祉の動向と問題②						
	4	在日外国人における保健医療の問題						
	5	文化人類学の概要						
	6	世界の健康課題、紛争①	ニュースなどから、世界の健康課題・医療課題についてピックアップする	玉木 恭子				
	7	世界の健康課題、紛争②						
	8	諸外国と日本の医療福祉制度						
	9	諸外国と日本の感染症に関する課題						
	10	国際紛争とその地域に暮らす人々						
	11	SDGs①						
	12	SDGs②	DVDの視聴から諸外国の課題やSDGsについての検討を行う					
	13	諸外国の実際の課題と日本						
	14	課題とSDGsの発表						
	15	終了試験						
履修条件	社会学の履修が終了していること							
評価方法	出席日数 授業態度 提出物 グループワーク グループワーク参加状況 筆記試験…20～30点							
テキスト	系統看護学講座 災害看護 國際看護 医学書院							
参考書	適時、提示します。							
備考								

## 看護学科

## 講 義 要 紹

科目	看護技術の統合	単位数	1単位	開講時期	3年次後期
授業形態	講義・グループワーク・演習	時間	30時間	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子				
授業目的	既習の知識・技術を統合し対象に応じた看護を実践する能力を養う				
到達目標	1 複数患者の事例をアセスメントしケアの優先度、時間配分、その根拠を考え1日の行動計画を立案することができます。 2 時間の経過とともに新たな患者情報への対応と行動計画を変更し調整することができる。 3 模擬患者に看護技術の目的・根拠を考えた看護を実践することができる。				
技術項目	35:創傷処置 39:経皮・外用薬の塗布 44:点滴静脈内注射の管理 45:薬剤等の管理(抗悪性腫瘍)47:緊急時の応援要請 51:バイタルサインの測定 52:フィジカルアセスメント 58:必要な防具の選択・着脱 59:使用した感染性廃棄物の取り扱い 63:インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 69:安楽な体位の調整 67:人体へのリスクが大きい薬剤にはばく露予防策の実施 68:医療機器の操作・管理 70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア				
授業概要	・事例の複数患者を受け持つためのアセスメント、優先順位と根拠を踏まえた1日の行動計画を個人、グループで立案します。 ・模擬患者に既習の知識と技術を統合させ対象に応じた看護を実践します。				
授業展開	回数	内容		準備等	担当者
	1	・複数事例のアセスメントを行う。(事前課題) ・優先順位の判断と時間配分を考慮した1日の行動計画を立てる。(事前課題) ・グループ内でアセスメントについて意見交換を行う。 ・意見交換を踏まえグループ内で記録をまとめて完成させる。		講義 2人の患者を同時にどのように受け持つか表現する。 複数の事例患者のアセスメント、1日の行動計画を立て授業に臨んでください。	玉木 恭子
	2	複数患者の事例展開 ・1日の行動計画についてグループ内で意見交換する。 ・意見交換を踏まえ優先順位、根拠、患者の状況を踏まえた1日の行動計画をグループで立てる。 ・1日の行動計画を立てる。 ・計画の根拠を明確にして目標が達成できるための計画を立てる。 ・チームリーダーへの報告、休憩時の引継ぎ内容も考え計画を立てる		グループワーク	
	3	複数患者の事例展開 ・事例患者の朝の情報から行動計画を修正する。 ・新たに得られた情報(カルテ、朝の患者の様子、申し送り)をもとに計画を修正する。		グループワーク	
	4	複数患者の事例展開 ・1日の経過とともに変化していく患者を捉え追加情報からアセスメントを行い必要な援助を考える。 ・追加する援助が実施するために1日の行動計画を修正する。 ・看護師との調整、優先順位や援助の根拠も明確にする。 ・発表資料の作成、印刷、配布 ・発表に進行と方法(司会者・発表形式・順番・必要物品)について決める。		グループワーク	
	5	成果の発表:学びの共有と評価		事例展開発表	
	6				
	7	新たな患者の事例展開 ・グループ内で事例患者のアセスメント、意見交換、修正と看護計画立案		グループワーク	
	8				
	9	模擬患者に知識と技術を統合した看護の実践 ・模擬患者へ看護を実践できるためのアセスメント・発表に向けての練習		グループワーク	
	10				
	11				
	12	模擬患者への看護の実践の発表			
	13	演習発表 場面1~4			
	14	発表→振り返り→質疑応答→模擬患者からのコメント→まとめ		演習 発表	
	15				

履修条件	形態機能学・病態生理学・薬理学・成人看護の方法の履修が終了していること
評価方法	課題の提出状況・内容、グループワークの参加状況、演習の参加状況(パフォーマンス評価)
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 系統看護学 別冊 がん看護 系統看護学講座 専門分野 医療安全
参考書	
備考	